

大学名：国立大学法人 琉球大学

ASPUnivNet の 4 つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します（加盟に関する相談も含む）	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	・教職員研修を担当するなどの支援を続けていた地域の学校（沖縄県立嘉手納高校）が加盟申請の表明をし、チャレンジ期間に入った。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	・キャンディデート校（浦添市立前田小学校）より、本申請について相談を受けているが、現段階で事務局から web 上での本申請が保留中ということで、その旨を伝えている。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	・2023 年 8 月に県内ユネスコスクール加盟校（キャンディデート校含む）を県教育委員会ユネスコスクール担当部署職員と訪問し、ユネスコスクールとしての活動の現状把握及び課題を確認し、指導助言を行った。 ・本学を会場として開催した「ESD/SDGs 教育実践活動報告セミナー」（2023 年 11 月 18 日）では、県内学校の ESD/SDGs 教育の実践活動報告や質疑応答、及び特別講演「ESD/SDGs の最近の動向と教育的意義～沖縄の特性を活かした取組と連携の可能性」での情報収集や理解の向上を通して、ESD/SDGs を先導できる学校としての質の向上につながる機会を作ることができた。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	・本学を会場として「ESD/SDGs 教育実践活動報告セミナー」（2023 年 11 月 18 日）を開催し、県内のユネスコスクールやキャンディデート校をはじめ、県内の SDGs 研究指定校や環境教育指定校、沖縄 ESD ティーチャー研究会のメンバーが参集し、ESD/SDGs 教育の実践活動の報告を通して情報共有と意見交換する機会を作り出すことができた。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	・前述のセミナーでは、実践活動報告を通して県内ユネスコスクール（金武町中川小学校）に登壇者として協力頂いた。
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	・特にニーズはなかったが、前述のセミナーで、本学教員及び学生・院生が県内の子どもの貧困対策を産学連携のもと企業から寄贈された食料品を子どもの居場所に確実に届けるためのアプリ開発について、実践報告を行った。これは SDGs 社会課題解決型研究プロジェクトであるが、支援大学校として本学の様々な資源（知的

		財産)の活用や多様なアプローチの可能性について紹介することができた。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	・前述のセミナー開催の際、県内の教育委員会や教育事務所、教育機関(小学校～大学)、大学コンソーシアム沖縄、JICA おきなわなど、ESDに関心のある組織や推進機関にセミナーの通知や後援依頼を通してASPUNivNet加盟大学ということを知ってもらう機会となった。
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	・前述のセミナー開催によって、沖縄県のSDGs研究指定校をはじめ小学校から大学にいたる教育関係者及び多様な教育関係者とNPO/NGO及び企業等、多様な参加者が一同に集う交流を通して、ESD及びSDGs教育の推進に繋がる学びの場を創出することができた。 ・セミナーでは奈良教育大学ESD/SDGsセンター副センター長(及川幸彦氏)の特別講演『ESD/SDGsの最近の動向と教育的意義～沖縄の特性を活かした取組と連携の可能性』を通してESDやSDGsの最新動向を理解することを促進し、セミナーを受講している地域のステークホルダーと異校種(小中高校～大学)の学校現場をつなぐ機会を作ることができた。
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	・沖縄県教育委員会と連携し(共催)、大学コンソーシアム沖縄(後援)ともつながる等して前述のセミナーを開催することができた。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	・近畿ESDコンソーシアム成果発表会実践交流会(2024年1月6～7日)において、県内のESDティーチャープログラム(近畿ESDコンソーシアム主催)受講教員が会場で実践報告を行うことを支援した。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	・近畿ESDコンソーシアム主催の2023年度ESDティーチャープログラムを紹介し、県内の教員数名が受講することを通して県外のユネスコスクール等の教員らとの交流の機会を支援した。沖縄ESDティーチャー研究会メンバーは、県外のESD/SDGs教育に取り組む学校、教員の研究会等で事例報告を積極的に行っている。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例:ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	・特に関連づけた活動やニーズがなかった。

5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	・本学 SDGs 推進室及び教育ワーキンググループにおいて、ユネスコスクール及び ASPUnivNet の取組みを周知し、本学の活動を報告した。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	・特に関連づけた活動やニーズがなかった。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	・特に関連づけた活動やニーズがなかった。
	④ その他	・大学として「カーボンニュートラル達成に向けた大学等コアリション」（人材育成 WG）に参加し、ESD/SDGs の達成に向けた教育を元にした教育開発と大学間の連携を進めた。 ・本学の教員が県内の教育総合センター及び教育研究所における教員研修等で ESD/SDGs 教育の講義を担当し、ユネスコスクールの存在や意義について説明した。 ・県内の ESD/SDGs 教育の教員間ネットワークである沖縄 ESD ティーチャー研究会の活動を支援（活動内容の整理や体制づくり等）した。
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	・第 15 回ユネスコスクール全国大会（2024 年 1 月 19～20 日）への参加や情報揭示を通じ、加盟大学との交流、情報交換を積極的に行うことができた。
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	・特に関連づけた活動やニーズがなかった。
	③ その他	・特に関連づけた活動やニーズがなかった。